日本の子どもの詩

徳島

日本作文の会編

日本の子どもの詩

徳島

日本作文の会 編

日本作文の会
日本の子どもの詩 36
岩崎書店　昭59
110p　21cm
内容：36　徳島
〔分〕911

日本の子どもの詩　36　徳島
一九八四年十一月三〇日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　大川松利
印刷所　株式会社 K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社

発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1984 Nippon Sakubunno kai
ISBN4-265-93836-1
—Published by IWASAKI SHOTEN Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「徳島編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918〜1945

8 時計
土がっせん
風
なしの木
9 三日月
霜の朝
あられ
肉屋のおじさん
10 霜
ひしの実
鯉
けけら
11 菊
秋日和
小さな虫
秋
12 初秋
おぼろ月
13 山の夕ぐれ
かぼちゃ
あゆ
魚釣り
麦
14 つつじの花
桜
秋の午後
15 憎らしいB29
16 特攻隊
海軍の兄さん

1945〜1959

18 おとうさん
おるすばん
たたみ屋さん
19 夜の工場
すずめ
20 おかあちゃんの目
21 かべぬり
海
らっかせい
22 ざいもくながし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

飛行機
母
23 雨ふり
いかだながし
やなぎ
24 うんどうかい
夕やけの道
いねかり
25 秋のひる
秋祭り
26 ぼくのかき
いもほり
27 のぎく
学校へ
そらまめをまいたとき
ミシン
28 雪
冬
いろり
29 冬の足音
30 なんてん
ねこがねている
もみすり
31 から風
冬の朝
32 風
ぎょうしょう

1960〜1969

34 さんしきすみれ
ふとん
しょうぎ
35 なの花
自てん車
36 バスの中
春
37 てっこつ
ちきゅう
38 大雨
大雨の夜
うちあげ花火
39 おとうさん
工作
つゆのころ
40 耳をすましてごらん
月の石
41 まきわり
おかあさんのかお
ぶらんこ

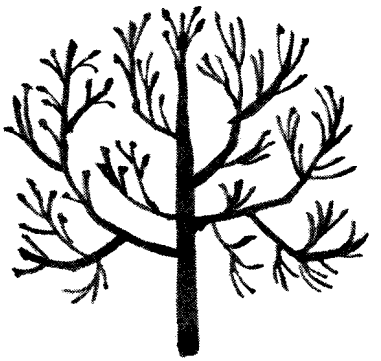
42 入道雲
ごんぎつね
43 かんたく地
マラソン
いもほり
44 おばちゃん
むくの木
土曜日の午後
45 いもうと
雪
46 おかあさんの手
あきかん
47 こたつの中の足
ふとんの中
母
48 冬の朝
わたしの一生
49 春
50 山
初雪

1970
〜

52 ばんじい
おたまじゃくし
かくれんぼ
さくら
53 かたたたき
ほめられた
54 春
もんしろちょう
春
かたつむり
55 やご
56 かい段
ぜんまい
57 私のゆめ
つくし
58 たんぽぽの命
ようかん
59 白とんぼ
ぼくの憧れの先生
60 せんせいのたんじょうび
かんがえ
61 おふろ
おとうさんのにおい
おかあさんのせなか
62 紙ひこうき
すもう
63 さようなら池高

カエルとせみ
64 あり
阿波のタヌキたち
65 茶つみ
ロケット
初夏の小鳥
66 あわおどり
夏の色
67 母への請求書
「あっこちゃん うそつき」
68 すきな子
ユーカリ
69 ふきとりに行って
おとうさん
70 流れ星
人間
71 一人の命
地球
72 水たまり
勉強している兄
73 友達
おじいちゃん
74 きんもくせいの花
75 ある時に
弓道
76 けんきゅうかい
77 いもうと
おてつだい
たけうま
いもうと
78 きゅうかんちょう
あかとんぼ
79 おまわりさん
体育館
80 ひなたぼっこ
赤とんぼ
結婚式
81 赤い雲
八十八の赤ちゃん
82 おそろしい台風
83 うんていにちょうせん
高てつぼう
84 シャボン玉
地球
85 実験
86 高清のばあやん
飛行機雲
87 さんぱつ
けやき
88 石ころ
89 背のび
秋の川

90 虫
おとうさん
おとうさん
91 おかしいな
おかあさんの目
92 わたしはちょうじょ
かぶらむき
93 ばあちゃん
先生あのね
おかあさんはせみだ
94 テスト
テレビ
95 ゆうれいさがし
祖谷の夕やけ
96 水
カラオケ
すもう
97 のら犬のお母さん
母の代わりに
98 ねぶかのはこ
99 父と生実
宇宙
じょ夜の鐘
100 広いところ
けんか
101 カレンダー
お姉さんだから
102 お正月
肉牛
103 姉妹
父の日曜日
104 こたつ
川
105 マラソン
初冬
106 核は戦争に使ってはならない
*
107 あとがき——徳島県の児童詩指導の歩み
110 この本の編集をした人たち



1918～1945
（大正７年）　（昭和20年）

ここには、
一九一八年に「赤い鳥」という
子どもの雑誌が発行され、
徳島県の子どもたちが
詩を書きはじめたころの作品から、
太平洋戦争が終わるまでのものが、
年代順にならべられている。

時計

かっちん　かっちん、
尾ばふるとけい。
かっちん　かっちん
尾のないとけい。
小さいとけいは
どこでもいくに
大きなとけいは
おるすもり
朝から晩まで
かっちん　かっちん。

讃山芳章　小4
勝浦郡千代校

土がっせん

田んぼ子どもが、
土がっせん。
べちゃべちゃにぎって、
投げつけりゃ
あたった所は、まっ黒す。

原田　勝　小5
勝浦郡千代校

風

朝早く学校に来ていたら
風が僕のかおを
なでていった。
そしてなしの葉をなでていった。

鈴木素儀　小4
徳島市富田校

なしの木

涼しそうな雲が
空にうかんでいる。
涼しい風が吹いてきて、
なしの木はしずかにゆれる。

白鳥泰次郎　小5
徳島市富田校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

三日月

原　治之　小6

野風呂にうつった三日月を
両手でそっとすくってみた

勝浦郡大松校

霜の朝

吉村尚夫　小6

霜がお屋根とお庭にふっている
はだかの柿の木風にゆれている
私も雀も茶色のジャケツ

麻植郡西麻植校

あられ

村上政雄　小4

降る降る降る
あられがふる
まいだれでうけて
見ていたら
たくさんあられが
いりました
一つ二つと
かぞえていたら
わからんように
なりました

板野郡黒崎校

肉屋のおじさん

原　治之　小6

肉屋のおじさんいつみても
白い前垂(まえだれ)首にかけ
赤赤肉を切っている。
しゃきりしゃきりと切っている。

勝浦郡大松校

霜

岡田幸雄　小3

霜　霜
ああさむさむ
霜がまっ白だ
前の橋に
自転車のわが二つ
ほそくついている

板野郡川内北校

ひしの実

工藤節夫　小4

ひしの実
白い実
川に一ぱい
舟々
そっとゆけ
ひしの実
泣くよ

名西郡石井校

鯉

篠原恒子　小6

うらのお池に鯉(こい)がたくさんういている
秋から冬は水がすんでいる
黒い鯉のあいだから赤鯉が
首だしてかわいいおめめでにらんでいる
木の葉がおちると、ういてきて
さわって見てまたはいる
私がいて見たらすみへ行く

名西郡石井校

けけら

藤本アヤコ　高2

けけら
年なんぼうぞ
十(とお)
十

名西郡石井校

菊

（氏名不詳）　高2

菊を咲かしたのは
つめたい風ですか。

名西郡石井校

秋日和

毛利清次郎　高2

菊の花を
小犬がふんで通った

あたたかい日に
黒い土の匂いが
しきりに流れる

名西郡石井校

小さな虫

中野仲行　高2

小さな虫よ
電気のそばでいたくないか

うすい羽が　すきとおっているぞ

名西郡石井校

秋

市原豊一　高2

白い犬が
風といっしょに走った

いなごが
ヒュッと胸にとびついた

名西郡石井校

初秋

中野仲行　高2

濁った水が
用水の底を流れる
小さい鮒が白い腹をかえして
水といっしょに流れた
稲の間からヒョット
鼠が顔を出した

名西郡石井校

おぼろ月

中野仲行　高2

うすぎりの夜だ
月が
靄の中で流れてる様だ

名西郡石井校

山の夕ぐれ

森　繁男　小6

ホー
ホー
ふくろう

ふくろうが
ないた

ホー
ホー
ふくろう

山は
暮れたよ。

名西郡石井校

かぼちゃ

田村猪三郎　小6

小屋の屋根の上で
かぼちゃが一つ
あかい夕日に
へそを照らしている

名西郡石井校

あゆ

天羽勝義　小6

ばちゃばちゃとゆるい川面を、
あゆが一ぴきながれて来た。
思いきり竹でしぶいたら、
手ごたえがした。
あゆは下腹をかえして下へながれて行く。
見えなくなるまで見てた。
冬の夕日がつめたく川にうつって
人の声もしない。

名東郡小塚校(指導)田中正潮

魚釣り

木本敏晴　小6

池へ行く
ぴくぴく引いた
揚げた時
重くて糸が
切れちゃった
僕は「惜しい」と思ったが
「魚は喜ぶことだろう」
誰かがそばで言っていた

那賀郡椿校(指導)田渕元直

麦

木内トシ子　小6

青い麦、
並んで生えて美しい。
何か敷物敷いたよう。

青い麦、
風が吹くたびさわさわと、
静かな音でゆれます。

那賀郡椿校(指導)田渕元直

つつじの花

木内トシ子 小6

紅色の
美しいつつじの花。
そっと手でさわると、
柔らかそうな花が
ぽつり落ちた。

那賀郡椿校(指導)田渕元直

桜

馬詰重典 小6

ちらちらと桜の花が雪のよう
春の景色をにぎやかに
桜の花が散っている

この世の名残りを惜しそうに
ちらちらちらと散っている
この世の名残りに一舞いと
思って舞うのか桜花

那賀郡椿校(指導)田渕元直

秋の午後

磯 昭子 小4

日のよくあたるえんがわである。
のんびりと、日なたぼっこをした。
いちょうの葉が
一枚ひらひらと落ちてくる。
ほんとによいおてんき。
ままごとでもしようかしら、
でも一人ではつまらない。
ああ、そうそう森下さんと長井さん
二人の友達をわすれていたとも考えたが、
さそいに行くのがめんどくさいと考えて、
えんがわから奥へひっこんだ。
今までぽかぽかしていたので

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com